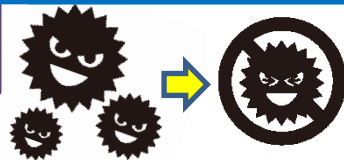


ノロウイルス感染症と溶連菌性咽頭炎について



ノロウイルス感染症の患者数が急増する11月になりました。ノロウイルス感染症の潜伏期間は通常1~2日で、主な症状は嘔気・嘔吐及び下痢であり、嘔吐・下痢は1日数回から多いときには10回以上のこともあります。特効薬はなく、対症療法となりますが、**最も重要なことは水分補給によって脱水を防ぐことです。**ノロウイルスの感染経路は感染後の発症者や無症状病原体保有者との直接もしくは間接的な接触による接触感染や、嘔吐物や下痢便を介した飛沫感染等のヒートヒト感染、それから経口感染です。非常に感染力が強いウイルスであることはよく知られています。図は小児科定点医療機関からの2006年以降の感染性胃腸炎の報告数の推移(2017年第41週(10月第2週)まで)を示しています(11月、12月の報告の大半はノロウイルス感染症が原因であると考えられています)。2016年は、2006年以来10年ぶりに大きな流行となりました。その理由は2006年以降流行の中心であったノロウイルスとは異なるGⅡ.2遺伝子を持ったノロウイルスが、2016年は小児を中心に全国的に流行したからです。一方、2017年の夏以降、このGⅡ.2遺伝子を保有しているノロウイルスは国内で殆ど検出されなくなり、かわって過去10年間国内で流行の中心となってきたGⅡ.4が再び大半を占めるようになってきています。率直に言って、これからの2か月間にどのタイプのノロウイルスが流行の中心となって、どのような流行規模となるのかはまだ全く予想できませんが、ノロウイルスの流行の本番はもう間もなくです。充分にご注意ください。

次に**A群溶血性連鎖球菌咽頭炎(溶連菌性咽頭炎)**について記載します。溶連菌性咽頭炎は咽頭痛、発熱、全身倦怠感で発症し、咽頭や扁桃に白苔が認められることも特徴の1つです。**抗菌薬内服による治療をしっかりと行わないと、再燃や糸球体腎炎等の合併症を来す可能性が高くなります。**11月は溶連菌性咽頭炎の患者数が右肩上がりに増加する時期であり、12月には冬の流行のピークとなります。今後の溶連菌感染症の動向にもご注意ください。

(感染管理室 安井良則)

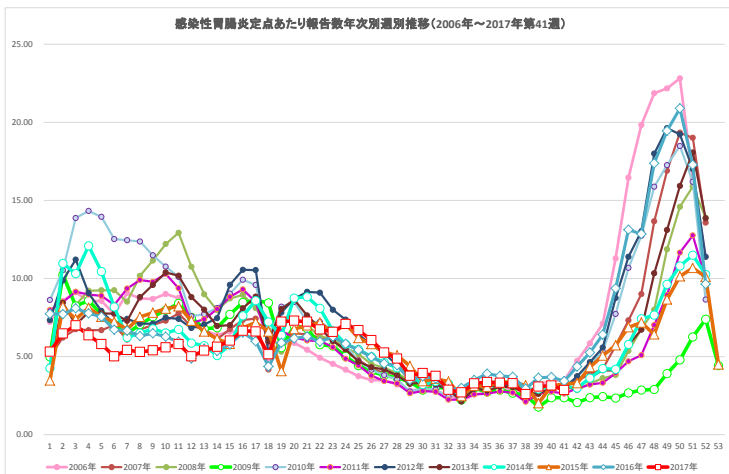


図1. 感染性胃腸炎の小児科定点からの報告数週別推移(2006~2017年第41週; 感染症法に基づく感染症発生動向調査データより)

北区感染管理ネットワーク立ち上げ

バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)やカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)などの**耐性菌の地域内での蔓延**などの問題が様々なところで聞かれるようになってきた今日この頃。在宅復帰や地域の施設などに帰られる患者さんも多く、院内・センター内での対策強化にとどまらず、**地域を含めての情報共有や相互支援ができないか...**ということで、この度、北区内の病院間でネットワークを構築することになりました!

次年度からの本格的な活動開始に向けて、各施設から世話人を選出し、今後の活動方針などを策定していく予定です。

【北区感染管理ネットワーク】代表世話人として中津病院の安井良則先生が就任されました。

まだまだこれから始まる取り組みにはなりますが、中津病院を利用される患者さん、職員の皆様方にとって有益な活動になるよう、メンバー一同、頑張りたいと思います。

また新たな情報などありましたら随時こちらのニュースにも挙げていきたいと思っています。ご期待下さい!



職員対象インフルエンザワクチン接種のご案内(11/6~11)

今年度は**インフルエンザワクチンの流通に制限がかかっており、十分な量の供給がなされていない現状**があります。ご予約いただいた方々のワクチンに関しては集団接種実施期間中に間に合うよう優先して準備をする予定ですが、現状では一般予約を含めると全く足りていない状況であり、**集団接種実施期間中に接種できなかった方に関しては、一旦接種保留となり、安定供給される12月以降の再予約**となってしまいます。体調不良などやむを得ない事情のある方以外は、必ず実施期間中に接種していただきますよう、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

職員対象インフルエンザワクチン接種

- 【期間】11月6日(月)~11月11日(土)
- 【時間】全日とも9:30~11:30と12:30~14:30
- 【場所】中棟12階第1会議室
- 【費用】20時間以上勤務の職員 無料
- 【注意事項】

- ・問診表を記入し検温をしてからお越し下さい。
- ・待ち時間に10分程度のレクチャーがあります!

